

復刊

ハガミ



所沢図書館だより
復刊8号(通巻86号)
題字 高橋 玄洋 氏

目次	
P.1	開館 50 周年を迎えて ごあいさつ
P.2-5	図書館のあゆみ(三)
P.5	「図書館といつまでも」
P.6	「未来の所沢図書館は? ～来館した小中学生に聞きました～」

所沢市立図書館は、開館50周年を迎えました!

五十周年を迎えて

所沢市教育委員会教育長
内藤 隆行

所沢における図書館の歴史につきましましては、古くは明治四十三年まで遡ります。所沢尋常高等小学校(現所沢小学校)の校長の図書への熱い思いにより、校舎の一室に閲覧席二十名規模の図書館が設けられたのが始まりと聞いています。

大正時代に入りますと、富岡村、吾妻村、三ヶ島村、松井村の各小学校内等に簡易な図書館が、地域の文化の向上を願う村の青年団を中心に設置・運営されており、所沢の図書館の歴史はまさに市民の皆様の努力から始まりました。

その後、太平洋戦争など困難な時期を乗り越えまして、昭和三十九年九月に、現所沢小学校正門前にございました旧実科高等女学校(現公園)の一部に、公共施設として初めて図書館が開館し、今年で五十周年を迎えます。

一館四千冊規模で始まった図書館が、今では全八館九十二

万冊を超える蔵書を誇る図書館にまで成長いたしましたことは、市民の皆様のご支援とともに歩んだ歴史であり、所沢市における社会教育におきましても大きな足跡を残すものであります。

この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

今後におきましては、子ども読書の推進を図り、将来の所沢を担う子どもたちの感性を磨く知識の場として、また、教育・文化の拠点として、さらなる充実を図って行くことが、未来の所沢へとつなぐ社会的使命であると考えております。

これからも市民の皆様と共に歩んでまいりたいと考えておりますので、より一層のご協力をお願いいたします。

暮らしの中に図書館を

所沢市立所沢図書館長

孝 企子

所沢図書館の前身は、市民の手によって創設された小さ

な図書館でした。半世紀を迎えた今では本館を始め、地域に根差した分館七館の読書活動の拠点となっています。この歴史の中で、図書館は多くの取り組みを行ってまいりました。

図書館から遠い地域の利用者のために、移動図書館による巡回サービスも行つてまいりました。「ほほえみのバネッサ」の音楽にのって、多くの子どもたちや市民の方が目を輝かせていたのを記憶しています。

惜しまれながらも廃止になつてしまつた移動図書館のかわりに開始したコンビニエンスストアでの図書等取次事業も好評をいただいております。

今後も「暮らしの中に図書館を」をモットーに、すべての市民の皆様に親しまれ愛される図書館、利用しやすくお役に立つ図書館を目指してまいります。



所沢図書館のあゆみ (三)



拡張期く分館建設と新サービスへの飛躍く

※所沢図書館のあゆみ(一)と(二)は「復刊いずみ」一号、二号をご覧ください。

現在の所沢市立所沢図書館本館は、昭和五十五年五月八日に開館しました。それとともに、文化会館内の図書館は、所沢分館として再スタートします。

新しい図書館では、コンピュータシステムが導入され、資料の管理や貸出返却などの業務が飛躍的に変化しました。システムの導入は全国的にも注目され、北は北海道から南は九州まで毎月のように視察希望がありました。

三階には、レコードやカセットテープが試聴できる視聴覚室が作られました。視聴席は十席設けられ、利用者に好評だったようです。また、七〇名が着席できる集会室では、毎月、映画会などが催されるようになりました。

辞典などが並ぶ参考図書室にはコピー機が設置され、複写サービスマス一枚三〇円で開始しました。

そして図書館資料を充実させるために「図書館資料選定モニター」制度をスタートさせました。市民の有識者の方など十名が選ばれ、年に数回、本の選定をしていただきます。この制度は現在も受け継がれています。

開館当初は、航空公園駅や市役所が建設されておらず、現在の賑わいからは程遠い環境でした。その当時、「所沢市万葉集を読む会」から、「私達の所沢市にも万葉植物園を作りたい」という希望が市へ寄せられました。そして殺風景だった建物の周りに少しずつ手が加えられ、昭和五十七年十二月に万葉植物園が完成します。

開館当初は、航空公園駅や市役所が建設されておらず、現在の賑わいからは程遠い環境でした。

その当時、「所沢市万葉集を読む会」から、「私達の所沢市にも万葉植物園を作りたい」という希望が市へ寄せられました。そして殺風景だった建物の周りに少しずつ手が加えられ、昭和五十七年十二月に万葉植物園が完成します。



市役所や市営駐車がなく、団地がよく見えます。(写真：所沢図書館所蔵)

昭和五十六年、本誌「図書館だより いずみ」が創刊されました。図書館のPRが主な内容で、丁寧な手書き文字で書かれて印刷されたものでした。内容は徐々に充実していき、本の紹介や所沢の歴史に関するコラム、市内在住の著名な先生のエッセイ、利用者登場など様々な内容が掲載されてきました。「図書館だより いずみ」は、創刊号から本館の参考図書室で見ることがができます。

その頃の事業を当時の要覧でみてみると、所沢の郷土史研究家の先生を招いた郷土史講座や文学散歩、製本講習会などを開催していたようです。

さて、いよいよ分館設立が相次ぐ拡張期に入っていきます。すでに昭和五十一年の「所沢市総合振興計画」の中には、中央図書館の建設を目指すとともに、「市内に適宜分館を配置し、中央館を核として、図書館サービスのネットワークを確立する。」という計画が掲げられていました。

昭和五十六年度く六十年度の同計画にも、「地域の実態などに即した分館を設置するなど、市全域にわたる図書館システムの確立をはかっていく。」とし、分館構想計画が次々と実現していきます。

昭和五十九年五月に椿峰分館が、六月には狭山ヶ丘分館が相次いでオープンします。

椿峰は土地区画整理事業によって開発された新興住宅地で、移動図書館がとも賑わっていた地区でした。分館には、土地開発の際に発掘された出土品の展示室も設けられました。

狭山ヶ丘分館は、コミュニティセンター内に併設され、主に狭山ヶ丘を中心とした三ヶ島地域にお住いの方に利用されています。

二つの分館が開館したことにより、移動図書館の六つの駐車場が廃止になりました。しかし、蔵書は全館で三十三万冊に増え、利用も着実に伸びていきます。

昭和六十二年七月には、富岡分館が富岡地区学習等共用施設(現・富岡まちづくりセンター)の二階に開館します。そして、昭和六十二年十一月、吾妻公民館(現・吾妻まちづくりセンター)が移転新設され、一階に吾妻分館

年度	人口	資料費予算 (単位:千円)	蔵書冊数	利用者数	貸出冊数
昭和39	82,859	1,000	3,687	2,171	2,643
45	140,510	1,793	17,167	10,970	28,685
55	238,531	33,227	182,299	179,513	520,343
59	267,798	71,092	331,443	284,328	850,150
62	289,769	79,889	480,877	315,736	937,483
63	293,576	95,142	531,277	312,440	923,240
平成4	311,061	84,808	693,633	400,696	1,124,186
11	328,207	76,492	785,671	490,093	1,394,098
17	337,883	55,654	805,500	538,126	1,428,155
24	343,020	55,298	904,372	598,969	1,706,064
25	342,564	55,009	929,957	589,837	1,658,709

が併設されます。その四年後の平成四年五月に、市内六番目の分館、柳瀬分館が柳瀬公民館（現・柳瀬まちづくりセンター）内に開館します。

こうして市内の図書館は七館になりました。その頃、世間では景気後退期にさしかかり、順調だった分館建設も中断され、しばらくの間は七館体制が続きます。

図書館利用者数や貸出冊数も着実に増えていきます。相次ぐ分館のオープンに加え、平成二年に、本館が週一回の夜間開館を実施すると、翌年には図書の間貸出冊数が百万冊を超えました。

電算システムの更新も図書館利用の拡大に大きく関わってきます。平成六年には、利用者が自ら蔵書検索をすることができるよう利用者端末機を全館に設置しました。子どもからお年寄りまで操作しやすいように、タッチパネル式の端末が置かれました。

そして、平成十一年、蔵書情報をインターネットに公開し、利用者が自宅で検索して予約ができるようになります。これによって資料の予約件数も大幅に増え、新たな利用者の獲得に大きく貢献しま

平成七年には、本市と近隣の狭山市、入間市、飯能市の四市で図書館の相互利用が開始されました。

視聴覚資料の蔵書も着実に増えていき、平成九年にはCDの貸出がスタートします。翌年にはビデオ、平成十八年にはDVDの貸出も始まりました。平成二十年には、予約もできるようになります。

一人四冊までだった貸出冊数は、平成十一年に図書五冊、視聴覚資料二点になりました。その後、平成二十一年には、図書十冊までに増えました。

した。

惜しまれながらも無くなってしまったサービスもあります。昭和四十七年以来、市内の様々な地域の利用者に親しまれてきた移動図書館「いずみ号」です。

移動図書館は、分館が開館する度に駐車場の見直しが必要でしたが、平成八年七月までは、二台による巡回を続けました。その後、一台になりましたが、利用の低迷と厳しい市の財政状況の中、排気ガス規制適合車への更新ができずに、平成十八年三月で廃止となりました。

ものしりコラム①

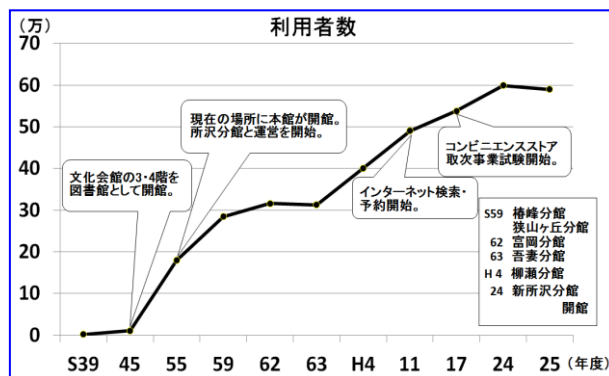
～役目を終えた移動図書館車の行先は？～

平成8年3月に更新した「いずみ2号」の旧車両は、NPO法人「アジア・アフリカと共に歩む会」を通して、南アフリカへ寄贈されました。

アフリカの子どものために、本を積んで力走です!!



また、市内松井地区に図書館をとの市民からの要望を受け、平成十七年に地域開放型学校図書館として松井小学校図書館が開館しました。子どもの本を備えた学校図書館であり、小学生以下の児童とその保護者が利用できます。また、窓口では市立図書館の資料の予約や貸出、返却ができます。



移動図書館廃止に代わるサービスとして検討されたのがコンビニエンスストア図書等取次事業です。平成十七年に試験的に市内二店舗で開始し、平成十八年六月から市内七店舗に拡大して本格的にサービスを始めました。

子どもへのサービスも大きく変化してきました。それまでの来館した子どもたちへのサービスから、図書館司書が外へ出ていくという新しいスタイルへと変わっています。

平成四年に司書の学級訪問が始まりました。所沢市内の小学校三年生を対象に、授業時間の一時間を使って、絵本の読み聞かせや本の紹介(ブックトーク)をします。

クイズあり、実験ありと工夫を凝らしたブックトークは、子どもたちに本の楽しさを伝えたい、そんな願いをこめて始めたサービスです。現在では、希望があれば三年生以外の学年も受け付けています。

同年、子どもの本のブックリストを作成して配布しました。それ以来毎年、お薦めの本を図書館員が選り、ブックリストとして市内の全小中学校の子どもたちに配布しています。

その頃から、世間でも絵本の読み聞かせなど、子どもの読書活動推進への関心が高まってきました。所沢市でも、平成六年から市内の中学校へ司書補助員の配置を始めました。そのような中で、図書館司書が色々な場所に向いて子育て講座の講師や司書補助員の研修を行う機会が増えていきました。

平成七年には、子ども向け広報紙「おはなしおはなし」を創刊しました。本館・分館のおはなし会や子ども映画会の日程、児童書の新刊案内が掲載されていました。「おはなしおはなし」は平成二十五年四月号で終刊し、現在では、市内の各館独自の広報紙を発行しています。

平成十四年九月には本館で、乳幼児とその保護者を対象にした

「親子おはなし会」がスタートします。市役所保育課に所属する保育士と連携し、わらべうたや絵本の読み聞かせを行いました。現在でも、保育士の方と一緒に、全館で実施しています。

平成十七年には、0～2歳の乳幼児とその保護者に向けたブックリスト「赤ちゃんにえほんを」を作成し、図書館や市内の公共施設で開催する子育て講座等の関連事業、乳幼児健診会場などでの配布を始めました。

また、昭和五十年頃から職員が続けてきた「おはなし会」(幼児・小学生対象)にも変化がありました。平成十七年に、「お話し(ストーリーテリング)の語り手養成講座」を開き、講座修了者が図書館のおはなし会に参加して、職員と共に昔話などの語りをするようになったのです。

平成十九年には「所沢図書館ボランティア活動要綱」を定め、本の配架ボランティアなどを市民から募集しました。それと同時に、「おはなし会ボランティア研修

会」を開催しました。研修で絵本の読み聞かせに関する技術を習得された方は、翌二十年一月から、「おはなし会」で職員と一緒に、絵本の読み聞かせをしていただいています。

ストーリーテリングボランティアや読み聞かせボランティアは、月一回の勉強会を続けながら、現在も活躍しています。

平成二十一年三月に、「所沢市子どもの読書活動推進計画」を、平成二十六年三月には、同計画の第二次計画を策定しました。「すべ」の子どもに読書の楽しさを！」を合言葉に、家庭・学校・地域・図書館が連携し、子どもの読書活動の推進に取り組んでいます。



学校の教室で、ブックトーク。子どもたちの輝く目が、本にくぎ付けです!! (写真:所沢図書館所蔵)

ものしりコラム②

～所沢図書館のマスコット～

名前: トベア

(平成14年に募集し、小学3年生の女の子がつけてくれました。)

誕生: 平成7年10月頃、絵の上手な司書のお姉さんから生まれました。



平成二十年一月、耐震補強等設備改修工事を終えた本館一階入口脇には、新たにビジネス支援コーナーを伴った新聞閲覧室が増設されました。また、それまでビジネスコーナーだった場所は、健康・医療コーナーとして生まれ変わりました。

また、平成二十二年には、所沢分館が新たに建設された複合公益施設「所沢ハーティア」東棟一・二階に移転します。併せてこれまで本館三階にあった視聴覚ライブラリーを所沢分館に移しました。

この時、所沢分館の窓口業務が民間委託になりました。民間活力の導入検討は続き、平成二十四年、新所沢まちづくりセンター二階に新所沢分館が開館すると同時に、市内の全分館に指定管理者制度を導入しました。

平成十四年に本館で始まった祝日開館は、指定管理者制度の導入で分館の職員が増えたことにより、平成二十四年度からは市内の全館で実施されています。

ものしりコラム③

～過去の講演会ピックアップ～

- ☆林 望氏 (平成6年11月)
『イギリスをめぐる
おいしくて愉快的な話』
- ☆藤原てい氏 (平成7年11月)
『私の歩いてきた道
—戦後50年を迎えて—』
- ☆小澤俊夫氏 (平成10年3月)
『昔ばなしが語る子どもの成長』
- ☆角野栄子氏 (平成11年10月)
『おはなしの宅急便』
- ☆藤田紘一郎氏 (平成12年9月)
『ヒトと寄生虫のいい関係』
- ☆沢木耕太郎氏 (平成13年11月)
『旅の不思議』
- ☆椎名 誠氏 (平成25年9月)
『未来にまで持っていくもの』

※講演内容の一部は、『所沢図書館だよりいずみ』に掲載されています。本館3階の参考図書室でご覧いただけます。

現在、所沢市立図書館は、本館分館併せて八館、蔵書数は九十二万冊になりました。平成二十五年三月には「所沢市図書館ビジョン」を策定し、より質の高い魅力ある図書館を目指し努力をしています。

平成十二年に、市制施行五十周年事業として開催した「図書館まつり」は、翌年から利用者の有志の方と協働で開催し、今年で十五回目を迎えました。

昭和五十四年、新しい図書館建設に向けて設けられた運営方針の五つの柱の中に、次の項目があります。

「五、誇りのもてる図書館
図書館は市民のものである。利

用者も図書館職員もお互いに誇りをもてる図書館にしたい。」
今一度、この言葉を胸に深く刻み、利用者の皆様に愛される図書館を目指したいと思えます。

図書館といつまでも

楽 千恵子 (元所沢図書館職員)

悠々自適に暮らすなら「温泉と図書館のあるところ」。映画館があればなおいいと思っていた。

自由の身となり各地をあれこれ巡ることも多くなったが、適地はまだ見出していない。温泉は、立ち寄り湯や身近のスーパージョウ、スポーツクラブの湯でも代用できそう。しかし、「いい図書館」の

代用はない。読みたいとき、すぐ知りたいと思ったとき、いつも用意して待っていてくれる図書館。充実した蔵書・情報・場所を提供してくれる図書館こそ私にとってのいい図書館。古きものも新しきものもしなやかに備えて。
いつだったか田舎に帰ったとき、ふらりと入った図書館の本棚に、読みたかったベストセラーを何種類も発見して歓声をあげた。信じられない。需要と供給のバランスで幸福度も変化することを実感した。

開館五十年を迎える所沢図書館で、そのうちの三十五年間を図書館員として過ごしたことを、私は誇りに思っている。

「人がより良く生きていくには図書館が必要だ」との思いは今も変わらない。

引退した今は、情報のチェックを怠らないよう心がけて、一刻も早い本との出会いを心待ちにしている。

これからも図書館が衰退することなく、市民（老若男女）を支え続けてくれるよう、日々利用しながら行方を見続けたいと思っている。

未来の所沢図書館は？

～来館した小中学生に聞きました～

118枚のアンケートから10枚を選びました！！

本をひらいたら、自動で音読してくれて、わからない言葉や質問にこたえてくれる！

ロボットが自分の好きな本を取ってくれる図書館。

1枚の利用券で日本全国の本を借りることができる。

自然の中でみんなが好きな本をよめる場所。

絵が動くような本になっている。

本の初めに書いてある文が紹介され、表紙などもコンピューターで見れ、だれでも本がかりやすくなっている。

ネットで本・雑誌を配信していてどこでも読めるようになる。外国語も全部ほんやくしてくれる。

未来の図書館へGo!

たてものが10階くらいあって色々な本の種類に分けられている図書館がいいです。

本がすぐに探せて、自動的にとんできて、外がもっときれいになって全体的に美しくなっていると思います。

今日にぴったりの絵本がとんできて、気づいたら手にとっていた。

編集後記

- ◆ 50年後の図書館を見てみたいが、超長生きしないと…。(T)
- ◆ 二重手ぶくろにカイロつめ
- ◆ 冬の自転車通勤始まりです。(K)
- ◆ 毎年風邪をひくので、元気に2015年を迎えるぞ！(T)
- ◆ 暖冬だが大雪も降る可能性を否定できないとする予報に感う。(Y)
- ◆ 心の暖房は読書で。本を読んであたたまってください。(S)

編集発行：所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木1-13

ホームページアドレス

パソコン <https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp>

携帯電話 <https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/k>

電話 / FAX

本館 04-2995-6311 / 04-2992-1421
 所沢分館 04-2923-1243 / 04-2928-8195
 椿峰分館 04-2924-8041 / 04-2928-8148
 狭山ヶ丘分館 04-2949-1193 / 04-2949-8577
 松井小学校図書館 04-2992-2796 / 04-2992-2797

富岡分館 04-2943-3636 / 04-2943-6680
 吾妻分館 04-2924-0249 / 04-2928-8250
 柳瀬分館 04-2944-4023 / 04-2945-7236
 新所沢分館 04-2929-1905 / 04-2929-1906

2014年12月20日発行 復刊いずみ8号(通巻86号)